



このコーナーでは、水資源機構の環境保全の取り組みを紹介します。

生命のバトンリレー

河川の生態系保全



魚類にやさしい利根大堰



利根導水路事業は、利根川中流域の埼玉県及び群馬県へ農業用水を供給するとともに、利根川上流ダム群で開発された水を、東京都、埼玉県及び群馬県の水道用水並びに東京都及び埼玉県の工業用水を供給している事業です。

利根川から取水するために設置された利根大堰では、魚類の往来が可能なように3本の魚道を設置し、春はアユの稚魚、秋にはサケの遡上を見ることができます。

サケ遡上・採卵観察会～サケ稚魚放流会



毎年11月の第二土曜日に利根川を遡上してきたサケを県の水産研究所等の協力を得て採卵するところ等を観察していただく、「サケ遡上・採卵観察会」を実施しています。昨年は、約1,500名の参加があり、サケの生態や、利根大堰の魚道の仕組み等をみていただきました。

そこで採取した卵を事務所で育てるとともに、近隣の小学校へ配布し、子どもたちにも孵化を体験してもらっています。



卵を配布する際には出前講座を開き、子ども達に、孵化させる際の注意点をはじめとして、命の大切さや河川環境について勉強していただきます。



2月、無事孵化したサケの稚魚を近隣の小学生と利根川へ放流します。その際には、河川清掃を行い、3～4年後に戻ってくるサケのための環境づくりをしています。

サケ遡上調査



毎年10月1日から12月25日までの間、利根大堰の魚道をのぼるサケの遡上数を調査しています。調査を開始した昭和58年当時は、数十匹しか確認できませんでしたが、その数は、平成13年頃から増加し始め、平成25年は18,696尾となり、3年連続で過去最多を更新し、10年前（平成15年）の1,515尾と比べ約12倍の遡上数となりました。

利根大堰の魚道等の効果や、関係団体・地域住民による稚魚の放流など、様々な取組の結果が実を結んだものと考えられます。

今後も地域等と協力しながら豊かな河川環境の創出に努めて参ります。